

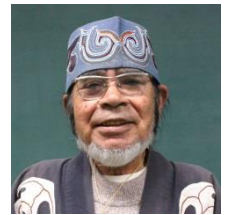


[令和 5 年 5 月 10 日 定例会発表要旨]

ふれてみよう アイヌ民族の歴史と文化

札幌アイヌ文化交流センター勤務 石井 ポンペ 氏

イランカラプテ。クアニアナクネ アイヌモシリ サップロハッチャム イシイボンペ クレハアン。(アイヌ語で「こんにちは。私の名前は北海道札幌市の石井ポンペです。」)



歴史について… 私は歴史を見ると明治以降、政府は何をしたのか皆さんとお話しながら歴史を確認してほしいと思います。私は歴史を変えてあなた方、津軽の海を渡って可愛い孫たちを連れて帰りなさいとそう言っているわけではないんです。歴史だけは、ちゃんと覚えながら北海道で生活をして頂きたいと私はこう思います。

江戸時代、1457年コシャマインの戦い、1669年シャクシャインの戦い、1789年メナシクナシの戦い、松前藩との3つ戦いがありました。特にシャクシャインの戦いの際にはシリエトックのアイヌも参加し、戦いの先頭に立つ人が松前藩の城の宴会の席に招待され、毒の入った酒を飲まされ毒殺されました。松前藩は3つの戦いをアイヌが起こした動乱によるものと伝え、歴史をちゃんと記載をしていないということです。また、戦後持ち込んできた肺結核、風邪の菌によりアイヌの子供や大人たちが減り、私の兄や姉たちが10代、20代で亡くなっています。明治以降、1869(明治2)年には、この北海道を蝦夷地とし、蝦夷地に開拓使を設置されるというふうになっています。1871(明治4)年には私たちの祖父母以降の代から日本の戸籍を制定して全道のアイヌの人々を日本の戸籍に組み入れたんです。さらに1872(明治5)年には、北海道土地媒介契約規則というのを作り上げています。そして1875(明治8)年には初めての屯田兵が札幌の琴似に1908戸が入地しました。その時に当時の樺太・千島交換条約により樺太に住んでいるアイヌの人たち841人を宗谷岬に、さらに江別の対雁^{ついでかり}に強制移住させるということになってます。1876(明治9)年にはアイヌの仕掛け、弓矢、狩猟、川でホッチャレ(アイヌ語で「鮭」)1本獲っても逮捕すると、こういう法律を作ってます。1878(明治11)年にはそのアイヌの呼び方を、旧土人としてます。

その後、1970年代、二風谷ダム裁判をきっかけに政府は、明治時代から続いてきた旧土人保護法を撤回をうちました。文化振興法もアイヌの耳に着けるニンカリとか、入れ墨法も禁止していました。その文化法を改正し、白老にウポポイとの国の大きな建物を作ったんです。だけど自分たちで自立しながらやらないと。いまは国のお金で、アイヌ協会含めて、皆頼っていますけども、国のお金がいつ予算がないと言って切られたら、このウポポイも全部終わりなんです。いま札幌にあるアイヌ協会も北海道内の観光地、旭川、二風谷、それから阿寒の観光地、国からお金が入らないと全く運営できない。そういう状態になっていくのが怖い、ということです。先日オーストラリアから、アイヌの人骨1体、返された。それは、樺太アイヌの人骨だと言って、樺太アイヌの若者が受け取ります。そこにはアイヌ協会の理事長、大川さんという人がその人骨を受け取ってます。その行先はというと、やっぱりこの白老のウポポイに、まず一時預けようということなんです。ウポポイにこれ預けると、国の施設ですから鍵を持っているのは国なんです。私たちが預かってる訳じゃないんです。私たちはそういう人骨はちゃんと、もう土に埋めて土に戻してくれと言っている。そうでないといつまでも置いておくと研究材料に使われるんです。まだ100年経ってもやっぱり貴重な文化財がこう

残っている、と言ってね。DNA とかそういう、アイヌの人骨を砕いて勉強されるという可能性がすごくあります。私たちアイヌは、みんな土の中に埋めて、自分たちは土に戻るんだと。土の上で育ったけれど、死んだら土に埋めてくれと、こういうふうに私たちの親たちは言っていました。まあそういうことで、この歴史っていうのは、まあ日本の歴史もありながらですね。私はこういうことがやっぱり早く解決策をしてほしいと思っています。

文化について…（御座編みのこと）昔は川辺にある蒲^{がま}、これが沢山あったんです。じゃあ今は蒲があるかってね、川辺には新川にもないんですよ。護岸工事される、川はどんどん広げられる。で、私の採ってきたこの蒲はあるところから採ってきた。場所は教えません。みんなが採りに行ったら困るからね。冬の間におばあちゃんたちや娘たちはこうゆう御座編みをして、敷物に使っていたんです。で、これは水に浮きます。あの、少し大きな御座だったら子供のせて、川をこう、引っ張って、荷物のせて引っ張って川を渡ったり。私たち子供のときは自分で作ったものなんです。この蒲を一杯集めて、縛って舟にする。（鹿笛のこと）鹿を呼んで獲るわけじゃなくてね、森へ入る時はこれで鳴らして入ると熊もね寄って来ません。（鹿笛にある）糸を外してください。こっから吹きます。これを張らないと音が出ませんからね。こういうふうにしてすると音が出ますから…。（鹿笛の音を聴き）これは雌鹿だ、これは雄鹿だ。（ドラム演奏とアイヌの子守唄ご披露）アイヌの歌でね、子守唄。アールルルールと。赤ちゃんを寝てる時に、昔は天井から吊るした、こうホチッポタ、ゆりかごね。それを揺らすとここで御座編みしてる、おばあちゃんがシボウをこのゆりかごに引っ張っておいて、そして赤ちゃん泣いたら仕事をしながら、御座編みをしながら揺らすと赤ちゃんが泣きやんで寝るということです。歌ではアールルルールという歌でね、歌いながら子守をする。いま、お母さんは山へ行ったよ、お父さんは川へ行って魚を獲りに行ったよ、もうすぐ帰って来るから。メンコネンネ メンコモコロ、という歌です。



石井氏が今回の講演の為に御座編み、鹿笛をご準備くださいました。



アールルルールー アールルルールー
 アールルルールー アールルルールー
 メンコモコロ メンコモコロ メンコおやすみ メンコモコロ
 又チオハスプリエ ママは山へ トペンテトオイシ 桑の実採りに
 アチャコハメズエ パパは川へ チェトトオイシ 小魚獲りに
 アールルルールー アールルルールー
 アールルルールー アールルルールー



石井氏の歌とトンコリ演奏の様子。

あ、みんな寝ちゃった？（笑いと拍手）ま、こういうことがね。今日のテーマ、アイヌ文化に全く相応しいかなと思って用意してきました。そんなことで文化や歴史に親しんで貰ったと思います。（会場は終始とても友好的な雰囲気、今後も関係を続けていきたいという感想を多くいただきました）

★北海道新聞札幌版「さっぽろ10区」に杉浦会員によるバツタ塚の記事が掲載されました。

2023年5月26日 金曜日 発行の「さっぽろ10区」を皆様ぜひご覧くださいませ。



國井和夫氏が、先月お亡くなりになりました。手稲郷土史研究会の創設に大きな功績のあった方であり、2代目会長として研究活動をリードしてくださいました。当研究会創世期の礎を築いてくださった方であります。心からご冥福をお祈りいたします。

次回定例会 ⇒ 発表内容「明治牧場について」菊池忠義（手稲郷土史研究会 会員）

7月12日（水）18：15～／手稲区民センター 3階 視聴覚室 ※会員でない方のご参加は事前の申し込みが必要です。

手稲郷土史研究会 会報「郷土史ていね」第182号 令和5年6月14日発行

発行責任者：沖田紘昭（手稲郷土史研究会 会長） 編集：岡和田夢子

❖〒006-0818 札幌市手稲区前田8条11丁目4-5 林俊一方 手稲郷土史研究会 ❖TEL 090-3381-4994 ❖FAX 011-682-9874

❖メールアドレス teinekyoudoshi@gmail.com <担当 岡和田>